

津市私立幼稚園・認定こども園協会と津市長・教育長・福祉部長との懇談会

日時：令和4年8月3日（水）

午前11時～

場所：津市役所4階庁議室

1 市長挨拶

～市内待機児童問題が収束、一旦終わったとの認識

～教員採用困難の課題認識、これからの市としての取組みへ

2 教育長挨拶

～多様性の時代； 価値観の多様化、正解は何処か？模索の時代

～子ども達に必要な力； 解決力育成→子ども達の自信へ、耐える力も

3 津市私立幼稚園・認定こども園協会長挨拶

～限られたリソースの中で、地域保護者の要望を受け入れながらありとあらゆる対応に迫られる私立幼稚園の現状

～各私立幼稚園、幼稚園教諭募集の窮状

～新たな施策「幼小接続； 津市架け橋プログラム」への対応不安

～ありとあらゆる面で、津市のサポートが私立幼稚園も必要、子どもを中心に据えて考えていただきたい

4 懇談

(1) 津市の教育・保育の将来ビジョンについて

～幼児教育がその後の成長のベース、子ども・保護者と力をつける

～子ども達を中心に据えたビジョン、ブレないように

～議論の中で「子ども」の不在→✕なこととして認識すべき

(2) 特別支援教育について

～現状、市内の園全体で増えつつある中、各園対応しきれていない→受け入れ園への市からのサポートを重視してほしい

～サポート活動（市側&NPO）の機会を増やしてほしい（足りない現状）

～各園のクラス担任（幼稚園教諭）が対応している現状、市より専門職員の派遣を増員希望

(3) 幼児教育と小学校教育の接続について

～連携と接続の違いを幼小双方できちんと認識、相互理解の必要性

～変化の主体は？本質を逃さない（幼稚園で子ども達がやってきたことへの理解）

～ポイント、小学校での幼児教育の理解を促進へ（小で幼の時出来た事リセットしない）

～幼稚園での学び＝遊びの中に、小学校での学び＝遊び→学習への段階的変化

～学校サポーターの活用へ

(4) 子ども・子育て支援新制度への移行について

～市内地域ごとに私立幼稚園へ要望があれば小さくても市が実施サポートすべき

→地域に留まる子ども・家庭を減らさない施策が必要

5 その他